

第1回 「写真で見る富里の歴史」

2019・7・21

— 七栄 150 年。大正・昭和・平成の記憶 —

林 田 利 之



1. 日吉倉の田園風景【昭和34年撮影】

成田市役所屋上から、日吉倉と成田の境界付近を撮影した写真。画面下に写っている道路は51号線で、未舗装路であったことがわかる。写真中央部に写っている川は、現在その一部が地下を流れているものの川筋自体は変わっていない。のどかな田園風景が広がっていた景色も、現在では大型店舗や住宅地へと変貌した。



2. 久能の田園での苗取り【大正15年撮影】

現在では機械化によって姿を消した苗代での苗取りの様子を撮影した写真。久能と成田市川栗との境界付近で撮影されたものと思われる。数十列に蒔かれた水稻の苗を田植え用にまとめ、右手前の田舟に積んでいる。



3. 七栄（銀座組）の祭り【昭和27年撮影】

現在も10月17日に七栄神社の縁日として開催されている七栄の祭りでの集合写真。当時、七栄交差点付近は「七栄銀座」とよばれ、その周辺に居住した人々は「銀座組」と呼ばれた。この写真は成田方面から富里高校方面を向い

て撮影されたもので、左手に写っている建物は明治～大正時代に旅館として営業していた。現在はコンビニエンスストアとなっている。また、距離と地名の書かれた木製の道標が写されており、七栄交差点が交通の要衝であったことが良くわかる。



4. 七栄（第三・四組）の祭り【昭和24年撮影】

3. 同様、七栄神社の祭りの時、七栄十字路口中央部から成田方面を向いて撮影された写真。右手奥に見える樹木が七栄神社になる。この年の祭りは「七栄開拓80周年」も兼ねて行われたものであり、ピエロの格好をした男性や、象の張子など、趣向を凝らして賑やかに祭りが行われていた様子が良くわかる。子供たちは着飾り、年に一度の祭りを大いに楽しんだことであろう。また、右側手前に写っている建物は、農協の販売所である。



5. 整備された道路【昭和20年代後半撮影と推定】

七栄交差点から三里塚方向を向いて撮影された写真。富里の道路が本格的に整備され始めるのは昭和50年代に入ってからのことであった。七栄交差点から三里塚に向かう道路は大正13年に県道として認定を受けていたものの、砂利敷きになるまでには相当の時間を要したことがわかる。この写真は砂利が敷かれた直後に撮影されたものと思われ、真新しい道路を確かめるように自転車が走っている。



6. 富里村農業協同組合【昭和30年代撮影と推定】

現在、富里市役所の西側に位置するJA富里は、元々は七栄交差点付近にあった。当時は、旧役場の建物や、七栄神社の境内を利用して西瓜の集荷が行われていたこともあり、地の利を生かした業務が行われていた。